

第6章 道徳科の学習指導案

1 道徳科の学習指導案の内容

道徳科の学習指導案には、特に決まった形式はありませんが、学習指導要領の解説には次のような内容で作成することが示されています。

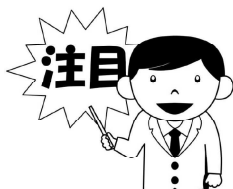
項目事項	項目に盛り込みたい事項
1. 主題名	<p>主題とは、どのような道徳的価値をねらいとし、教材をどのように活用するのか指導のまとまりを表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例1・・・「気持ちのよい学校生活」 ・例2・・・「自然に学ぶ」 ・例3・・・「働くことの意味と大切さ」
2. ねらいと教材	<p>○ねらいの文末表現は、その時間の指導の重点が道徳的心情の側面にあるのか、道徳的判断力の側面にあるのか、道徳的実践意欲や態度の側面にあるのか明確に示す。</p> <p>○ねらいの構造 例えば、ねらいは、「学習の中心的内容」「学習活動」「道徳性の諸様相」の3つの構造を一文で表す。</p> <p>○教材名と出典を示す。 (例) 教材名「ブランコ乗りとピエロ」相互理解、寛容 出典「私たちの道徳」</p>
3. 主題設定の理由	<p>(1) ねらいとする道徳的価値 【価値観】</p> <p>授業者が、1時間の授業で指導する道徳的価値を理解して、自分なりの考え方を記載する。その際、学習指導要領解説によること。</p>
	<p>(2) 児童生徒の実態 【児童生徒観】</p> <p>ねらいに関わって、これまでどのような指導を行ってきたか、また児童生徒がどのような学習や経験をしているのか。また、その結果、どのような成果や課題があるのかを示す。</p>
	<p>(3) 教材の特質と活用方法 【教材観】</p> <p>教材のあらすじや特質、それを生かす具体的な活用方法等を記述する。</p>
4. 本時の学習指導過程	<p>一般的には、導入、展開、終末の各段階に区分し、児童生徒の学習活動、主な発問と予想される児童生徒の発言、指導上の留意点、指導の方法等を指導の流れに即して記述する。</p>
5. 評価	<p>本時で、児童生徒に期待する学びの姿を示す。(評価の着眼点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇多面的・多角的な見方へと発展させているか ◇道徳的価値の理解を自分との関わりで深めているか <p>⇒これらの方向で、実際の教材や発問等を鑑みて、児童生徒に期待する具体的な学びの姿を想定する。</p>
6. その他	<p>板書計画、他の教育活動との関連、複数時間扱いの際の指導計画等</p>

2 道徳科のねらいと評価

道徳科のねらいは、特に決められた形式等はありませんが、明確にしておくべき事項があります。

道徳科の学習は、道徳性の育成を目指して行われます。

ですから、その時間の指導の重点が、道徳的心情の側面にあるのか、道徳的判断力の側面にあるのか、道徳的実践意欲や態度の側面にあるのか明確にすることが大切です。



- 本時でねらう道徳性の諸様相を明確にする。
- ねらいの文末は、道徳性の諸様相を明確にして示す。
 - ☞ ～～な心情を育てる（道徳的心情の側面）
 - ☞ ～～な判断力高める（道徳的判断力の側面） 等

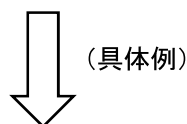
【ねらいの構造】

「新大分スタンダード」では、各教科等のねらいについて、「学習内容」「学習活動」「育成を目指す資質・能力」の3つの要素を入れた書き方を示しています。

道徳科で言えば、次のような3つの要素で書くことが考えられます。

「学習の中心的内容」 「学習活動」 「道徳性の諸様相」

- 「学習の中心的内容」 (～について、～を)
- 「学習活動」 (～活動を通して) 期待する学習状況のこと ☞ 評価の着眼点
- 「道徳性の諸様相」 (～な心情を育てる、～な判断力を高める、～な態度を育てる等)



- 「学習の中心的内容」・・・ 主人公が気付いた働くことの意味や大切さについて
- 「学習活動」・・・ 様々な側面から考えたり、話し合ったりする活動を通して
- 「道徳性の諸様相」・・・ 勤労を通じて社会に貢献していこうとする心情を育てる。

【教材 そうじの神様が教えてくれたこと 中学校】

【評価の着眼点】

道徳科の評価は、道徳性が育ったかどうかを評価するものではありません。
道徳性につながっていくような学習状況がみられたかどうかを、把握していきます。
したがって、ねらいの3つの要素のうち、「学習活動」を評価の着眼点にします。

上の例で言えば、「働くことの意味や大切さについて、様々な側面から考えたり、話し合ったりしているかどうか」を見ていくのです。

教材や発問等を鑑みて、次のような具体的な【評価の着眼点】を設定します。

勤労の意義について、＜義務＞＜役割＞＜誇り＞等の様々な視点から、考えたり、話し合ったりしているかどうか。

3 学習指導案の例（小学校）

第5学年 道徳科学習指導案

1 主題名 謙虚に広い心をもって

2 ねらいと教材

ピエロがサムを受け入れたことについて、人を許すことの難しさや受け入れるときの様々な考え方を話し合う活動を通して、誰に対しても公正、公平に接しようとする心情を育てる。

＜教材名「ブランコ乗りとピエロ」 内容項目「謙虚・寛容」 出典「日本文教出版」＞

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値【価値観】

「寛容」とは、広い心で相手の言動を受け入れたり、相手を認め、許したりすることである。しかし、自分と違う考え方や相手の過ちに対して、「寛容」であることは難しい。

では、どうすれば、人は「寛容」になれるのだろうか。

それには、「自分も失敗や過ちを犯すことがある」と自分自身を振り返る謙虚さが必要である。相手の言動の背景を理解することで、相手に対して寛容になれるのである。

高学年においては、異なる意見や立場を尊重し、これまでの自分自身の言動を謙虚に振り返ることで、相手を受け入れる気持ちが生まれてくることに気付かせたい。

（2）児童の実態【児童観】

本学級では、4月当初より学級作りの一つとして、互いのよさを認め合う場を作ってきた。

例えば、素直に謝ることができた児童や、友達を許すことができた児童等を、帰りの会で紹介し、みんなで認め合う活動を行ってきた。

一学期の終わりには、友達と言い争いになっても、相手の意見に耳を傾ける児童が多くなってきた。また、「ごめんなさい」と友達が言えば、自分のしたことにも目を向け、素直に謝る姿も見られるようになってきている。

しかし、自分自身の言動を振り返ることは難しい実態もある。学級レクでは、誰かがミスをする必要以上に責める児童がいる。このような態度は、「自分もミスをするかもしれない」と、自分自身を振り返ることが不十分であるためだと考える。

このような課題に対して、児童たちが、自分に謙虚であることが寛容な態度につながると気付けるように、様々な視点から多面的・多角的に考える学習活動を構想していきたい。

（3）教材の特質と活用方法【教材観】

サーカス団のリーダーであるピエロは、半年前に入団したサム（ブランコ乗り）の態度に腹を立てていた。サムはピエロの忠告は聞こうとせず、いつもスター気取りだった。大王を招いての演技披露の時も、サムが目立ってしまい、ピエロは自分の演技を大王に披露することができず、憎しみの気持ちがさらに高まった。

しかし、演技を終えて疲れ切ったサムの姿を目にすると、ピエロの心から、サムへの怒りや憎しみが消え去るのであった。

ピエロの憎しみが消えていったのは、サムの演技への真剣さやサムに対する自分の態度を謙虚に見つめ、深く反省することができたからである。

本教材は、自分と異なる考え方や過ちを犯した相手を受け入れる時の心のもち方を様々な視点から想像し、「謙虚」な心が「寛容」な態度につながることを感じ取ることができる教材である。

4 学習過程

	学習活動・主な発問と予想される児童の反応 (○基本発問 ◎中心発問 ◇補助発問)	指導上の留意点
導入	1. どうすれば、広い心がもてるのか話し合う。 ○どうすれば、広い心がもてるのかな	○教師の説話(学生時代の許せなかった経験)を行い、本時のねらいに対する問題意識を高める。
展開	2. 「ブランコ乗りとピエロ」を読んで話し合う。 ○自分の出番を奪われたピエロはどんな気持ちだったか ・許せない ・くやしい ・後で一言言ってやる ・サムがにくい ◎なぜピエロから、サムを憎む気持ちが消えたのだろうか ・がんばっている姿を見たから ・サムがぐったり疲れきっていたから ・お客さんが喜んでいたので 【相手の長所 ⇒ 許す気持ち】 ・サムにきびしく言い過ぎたという反省の気持ちがあったから ・自分にも「目立ちたい」という気持ちがあったと気付いたから 【自分も反省すべきことがある ⇒ 許す気持ち】 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ◇「がんばっている」と思ったら、「許せない」という気持ちは消えるのかな ・大切な出番を奪われたのに、がんばりを知ったくらいで、簡単に許せない ・ぼくが、ピエロの立場だったら、許すのは難しいかもしれない </div>	○教材は、教師が読み聞かせる。 ○あらすじの構造図を示し、サムがピエロの出番を奪ったことを確認する。 ○サムの態度が許せないという考えを引き出し、ピエロに共感させる。 ○ピエロの気持ちの変容に着目させ、中心発問を位置付ける。 ○中心発問に対して、まずは、サムのがんばりを知ったから、憎しみが消えていったという考えを出させていき、板書に位置付けていく。 ○2つの考え方を対比的に板書し、人を許す時の感じ方、考え方を多面的に捉えさせていく。 ○ <u>ピエロ自身の反省と捉えた考えが出ない場合は</u> 、補助発問でゆさぶり、人を許すことの難しさ(人間理解)を感じさせる。 ○補助発問のスペアを準備しておく。児童の反応によっては、他の補助発問を活用する。 ○子どもの考えを分類したものに注目させ、中心発問と呼応させながら話し合いを整理する。(まとめ) ○一つの考えに集約するようなまとめは行わない。
終末	3. 自分自身を振り返る。 ○今日の学習で、これからの自分にとって大切なと感じたことがあるかな。	○自分自身をじっくりと振り返ることができるように、ワークシートに書かせる。
終末	4. 教師の説話を聞く。	○寛容な態度のよさが、より実感できるように、偉人の名言を紹介し、実践意欲につながるようにする。

5 評価

<学習状況を把握するための指導の着眼点>

(期待する学習状況)

○サムを許すことの難しさについて、自分事として、考えたり話し合っているかどうか

○サムを受け入れる時の様々な考え方について、発言したり書いたりしているかどうか

<方法>

○授業中の発言内容や話し合いの発言内容から把握する。

○最後に書いたワークシートの内容から把握する。

※参考：<ねらいと評価の関連>

学習の中心的内容・・・ピエロがサムを受け入れたことについて

学習活動・・・人を許すことの難しさや受け入れるときの様々な考え方を

話し合う活動を通して

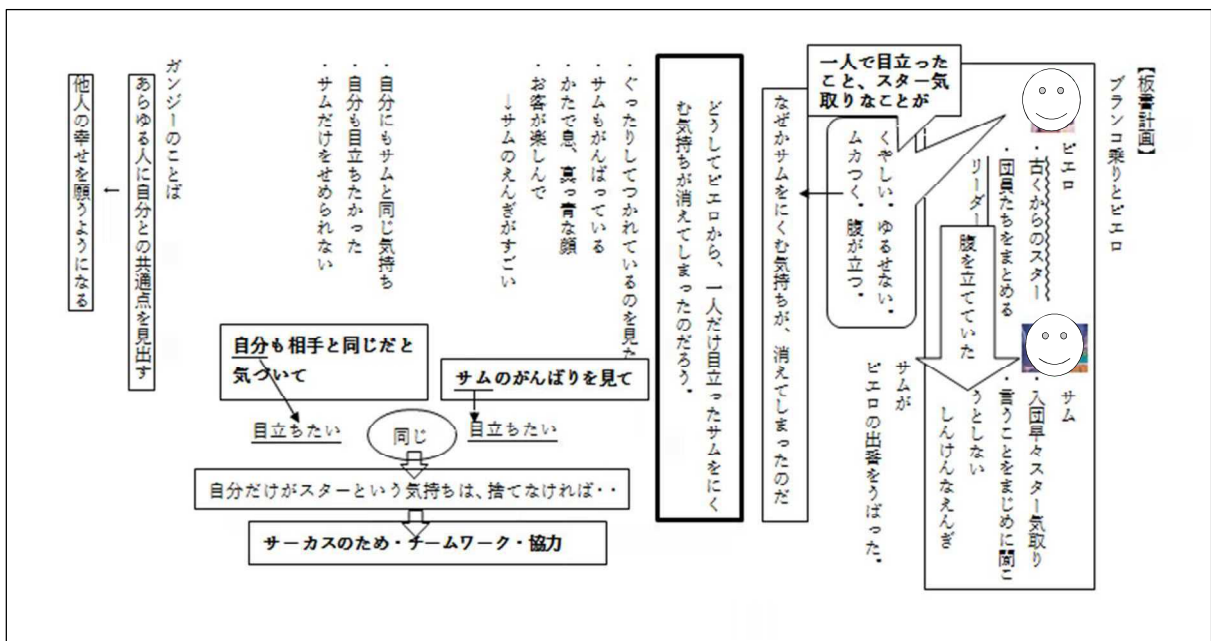
道徳性の諸様相・・・誰に対しても公正、公平に接しようとする心情を育てる。

○サムを許すことの難しさについて、自分事として、考えたり話し合っているかどうか

○サムを受け入れる時の様々な考え方について、発言したり書いたりしているかどうか

6 その他

板書計画 (例)



※実際の板書は、本書の10ページに掲載しています。

4 学習指導案の例（中学校）

第1学年 道徳科指導案

1 主題名 働くことの意味と大切さ

2 ねらいと教材

主人公が気付いた働くことの意味や大切さについて、様々な側面から考えたり、話し合ったりする活動を通して、勤労を通じて社会に貢献していこうとする心情を育てる。

<教材名「ディズニー そうじの神様が教えてくれたこと」 内容項目「勤労」

出典「日本文教出版」>

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値【価値観】

現代社会は巨大で複雑な産業社会となり、自分のしている仕事の意義が見えにくく、自らの目的をもちづらくなっている。これまであった仕事姿が姿を消し、新しい仕事が生み出されていく社会の中で、職業とは何かについて考えることは大切である。

職業には、収入を得て生活を維持するという面、社会の中で一定の役割を果たして社会を支えるという面、自らの目的を実現するために働くという職業を使命として捉える面等がある。また、働くことは、人生において、重要な位置を占めており、人は働くことの喜びを通じて生きがいを感じ、社会とのつながりを実感することができる。

指導に当たっては、特に与えられた仕事への向き合い方を考えさせる。そして、働くことには自分自身の幸福追求だけでなく、自分が行う仕事によって社会を支え、発展・向上に貢献している一面もあることに気付かせたい。

（2）生徒の実態【生徒観】

本学級では、「何を優先して職業を選ぶか」という意識調査において、「趣味や特技をいかせる仕事」や「高収入を得られる仕事」、「将来が安定している仕事」を優先的に選ぶ生徒が大多数を占めている。

一方で「社会や人の役に立つ仕事」を優先的に選んでいる生徒は2人だった。職業を選ぶ上で自分の好きなことを優先し、安定していたり、高収入が得られたりする仕事に就きたいという生徒が多い傾向にある。

本時では働くことの意味を、収入という面、社会を支えるという面、職業を使命として捉える面等、多面的に考えさせることを通して、働くことの意味や大切さについて、生徒個々の考え方を深めていきたい。

（3）教材の特質と活用方法【教材観】

本教材の主人公は、ディズニーランドの「夜の清掃員」に配属されて落ち込み、掃除に対して偏見を抱えながら働いていた。

そんな時、ディズニー本社の「掃除の神様」チャックと出会い、掃除の方法や掃除に対する考え方を知り、主人公は、働くことの意味や誇りをもつことの大切さを学んでいく。

生徒たちに、主人公の変化や仕事への向き合い方に出合わせ、働くことの意味について議論させることで、働くとは社会に貢献する側面があると同時に、生きがいや自分の成長につながる側面がある（多面的・多角的な学習）と気付かせることができる教材である。

4 学習過程

	学習活動・主な発問と予想される生徒の反応 (○基本発問 ◎中心発問 ◇補助発問)	指導上の留意点・・・○
導入	1 職業は何を優先して選ぶのか話し合う。 ○職業で大切なことは、何だろう。	○アンケート結果を提示し、本時のねらいに対する問題意識をもたせる。
展開	2 「そうじの神様が教えてくれたこと」を読んで話し合う。 ○「与えられたことをやるしかないんだ」と言った主人公はどんな思いだったか。 ・一生懸命働いて、他の華やかなキャストに変わりたい。 ・頑張って他の場所に移動したい。 ・仕方ないから働く。 ◎「仕事とは、自分の都合のためにやるものではないことを、教えられた」と言っている主人公はどんなことに気付いたか。 ＜ゲストのため＞ ・ゲストを喜ばせたい。 ＜ディズニーランドのため＞ ・みんなで助け合って、完璧なディズニーランドをつくりたい。 ・自分の担当以外でも気付いたらやろう。 ＜自分のため＞ ・ゲストが喜ぶことで結果として自分の夢が叶うことだ。 ・仕事に誇りをもって頑張ることが大切だ。 ◇主人公の夢（目標）は叶った（達成）されたのか。 ・自分の掃除で、ゲストが喜ぶことで夢は叶っている。 ・自分の仕事に、自分自身で納得したと思うから、叶っている。	○教材は、教師が読み聞かせる。 ○主人公が自分の夢（幸福追求）を求めてディズニーランドで働いていることに気付かせる。 ○ここでは、時間をかけすぎないようにする。 ○中心発問に対して、自分で考えをワークシートに書かせる。 ○教材文には、主人公の考えは書いていないことを伝え、自分の感じ方等を総動員させ、考えさせる。 ○考えをペアで交流させ、発表させる。 ○＜ゲストのため＞という意見が多くなると予想されるので、「ゲストのために何をするのか？」と問い、意見を広げていく。 ○誰かのためや社会のために働くことは結果として、自分の喜び(幸福追求)につながることに気付かせる。 ○働くとは、収入以外にも、自分の幸福追求と共に社会貢献の要素があることを整理してまとめとする。 ○一つの考えに集約するようなまとめは行わない。
	3 自分自身を振り返る。 ○仕事をする上で大切なことはどんなことだと思うか。	○今日の学習で、自分にとって何が大切なのかを書かせる。
終末	4 教師の説話を聞く。	○教師自身の今の職業に対する誇りや生きがい等を語り、生徒のもつ職業観をさらに広げていく。